

6 災害調査 課題名 魚沼市湯之谷ならびに十日町八箇峠で発生した雪崩調査

研究代表者	雪氷防災： 西村浩一	実施期間	平成 17 年度
研究参加者	雪氷防災：西村浩一 山口悟 岩本勉之 新潟大学：河島克久、伊豫部勉		

[目 的]

1月12日魚沼市上折立で雪崩が発生し、栃尾又温泉が一時孤立した。また十日町市の253号も雪崩により通行止めとなった。13-15日には気温の上昇と降雨により、さらに大規模な雪崩の発生が懸念されたために現地において雪崩の状況ならびに雪質状況を調査した。

[実施内容]

1月12日に魚沼市上折立で雪崩が発生した地点で雪崩の規模の測量、表面付近の雪の観測を行った。また、少し下流の部分の平地において地面までの断面観測を行い、全層雪崩の危険があるか等に関して調査を行った。また十日町八箇峠の雪崩現場において雪崩の規模に関する測量を行った。

[成果と効果]

現場で行った調査より魚沼市上折立で起こった雪崩は前日から降り積もった20cm程度の新雪が崩れた表層雪崩であったことがわかった。地面まで掘った断面観測結果より、融解水はまだ底面まで達していないことが確認された(図1)。また底面付近の積雪の密度は 450kg m^{-3} 以上にもなっており、非常に圧密が進んでいることも確認された。

十日町八箇峠の雪崩の測量の結果、雪崩は段切された斜面に積もった雪の塊が落ちたことにより誘発されたものであるということがわかった(図2)。

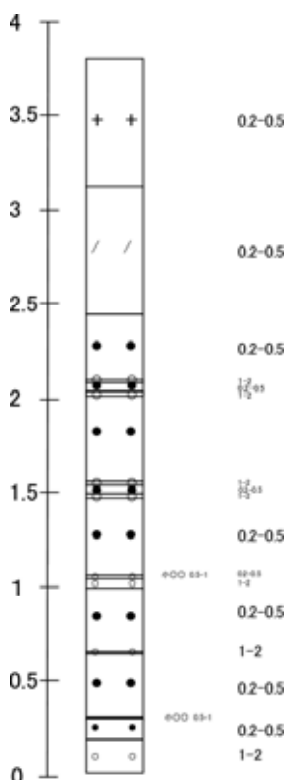


図1 魚沼市大湯上折立県道、栃尾又温泉近くにおける断面観測結果



図2 十日町八箇峠における雪崩
(写真提供：森林総研十日町試験地 竹内由香里)